



れいきゅうしゃ  
ミニチュア霊柩車発売に際して

霊柩自動車専門製作  
株式会社 米津工房  
社長 米津 三郎

物を運ぶことは人間に限らない。

しかし人間はそれを機具による手段を使うことに成功した。

まずソリ、そして車輪、さらに自動車。

さて葬と言う儀式を行うのは人以外にはない。その儀式は富貴を問はず この世との惜別の式として、

それは荘厳であり 丁重であらねばならない。運ぶ事と前記の要求が霊柩車の作られた要素と言へよう。

れいきゅう  
残念ながら霊柩自動車の創始についての明確な記録はない。

れいきゅうしゃ じんぐうじみやがたしほうはふう  
このミニ霊柩車は「神宮寺宮型四方破風」と称してありますが、葬には宗教が介入します。そこで私は神社にあらず仏閣にあらずと言う建築様式と自動車とを結合させ荘厳優美を保持し、且自動車としての諸法律に適した型としてこのようなものを完成致しました。

屋根装飾の竜はもちろん架空の動物で、あの世へ行く方々の従者（守護）を意味して居ります。

れいきゅうしゃ  
この度 米澤玩具さんが当社の霊柩車をモデルとしてミニ化するに当り 私どもは出来得るかぎりのアドバイスは致しましたが、ここまで完全に近い形に完成した米澤玩具さんのスタッフの方々に心から敬意を表します。

1980年10月

ダイヤペット発売15年を期して、この間その発展に力をかしていただいたコレクターの方々にお礼の意味をこめて特殊車の限定販売致すことになり、以前から海外のミニカーコレクターより日本のスペシャルティカー<sup>れいきゅうしゃ</sup>霊柩車のモデル化を要望されておりましたし、日本のコレクターからも実現は無理かも知れないがと迄言われながら少なからず要望がありましたので、ある意味でタブー視されていた霊柩車のモデル化を実現させることになりました。

れいきゅうしゃ  
霊柩車は株式市場関係の人、相撲界、芸能人、水商売などの人たちがこれに会うと縁起が良いとされていますが、一般的には何となく忌きらわれる面が強く、発売にあたり私どもの気持として「お守り」を一体おつけして気持ちよくお求めいただける様にいたしました。

れいきゅうしゃ  
制作にあたりましては現在の霊柩車の型を創出した、米津工房の米津社長様のご指導をあおぎようやく完成致しました。

私どもではあくまでもミニカー愛好家の方を対象として制作したものですから、販売に際しても限定された形をとりますので、一般の他のミニカーとは別のものであることをご理解いただきたいと存じます。